

障害者支援施設 鹿野かちみ園

1 基本方針

利用者の意思と権利を尊重しながら、一人ひとりが生きがいや役割をもって楽しく健やかに生活できるよう日々支援するとともに、地域移行をはじめ、その人に相応しい自立への支援を行う。

2 利用者の状況（令和4年3月31日現在）

(1) 入所者状況 (人)

利用人数		前年度末利用者数	令和3年度中の入退所状況								利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数	
			入所人員	退所人員	退所理由別					死亡				
					GH	アパート等	家庭復帰	施設移管	契約解除(入院等)					
生活介護	60	72	5	2	0	0	0	0	0	2	17,106	106.0%	75	
施設入所支援	60	60	5	2	0	0	0	0	0	2	21,568	98.5%	63	
2 年度	生活介護	70	76	3	7	0	0	0	5	0	2	17,559	93.3%	72
	施設入所支援	70	65	1	6	1	0	0	3	0	2	21,867	85.6%	60

(2) 障害支援区分

①生活介護 (人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	3	10	16	9	38
女性	0	0	0	4	6	18	9	37
計	0	0	0	7	16	34	18	75

②施設入所支援 (人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	2	8	14	7	31
女性	0	0	0	2	3	18	9	32
計	0	0	0	4	11	32	16	63

3 事業の実施状況

(1) 要介助高齢知的障がい者支援

ア 高齢化による疾病（生活習慣病等）、身体機能低下（ADL低下）、脳の機能低下（認知思考、気力等の低下）について、専門的知識・技術を園内外の研修を受講し、利用者支援に務めた。

(ア) 健康管理

- ・嘱託医及び医療機関と緊密な連携を図り、病気の異常早期発見・早期治療に努めた。
月2回の精神科医の診察で、精神的に不安定な方への早期対応を行なった。
- ・職員1名が新型コロナウイルスに感染したが、利用者、他職員に感染はなかった。
感染症予防については、適宜感染症対策委員会を開催することで、新型コロナウイルス感染拡大状況と対応策を話し合い、徹底して予防に務めた。
- ・令和3年度の入院は16件（悪性腫瘍・誤嚥性肺炎・意識消失・行動障がい等）、救急車対応は5件あった。特に今年度はてんかんの重積発作による救急搬送が多かったが、通年を通して夜間想定救急対応訓練をしていたため落ち着いて対応できた。
- ・日常生活の食事・入浴場面に潜むリスクを減らすため、新任職員を中心にKYT研修（危険予知研修）を実施した。

(イ) ADLの活動性を高める支援

- ・鹿野温泉病院の言語聴覚士を講師に摂食嚥下研修を実施し、嚥下のメカニズムを学んだ。
利用者の嚥下状態について姿勢や介助の方法等アドバイスを得たが、今後も管理栄養士、嘱託医、看護師、支援員と連携し、個々の利用者の評価及び食スタイル（食形態・食事環境など）を随時見直し、誤嚥性肺炎や喉詰めの防止に努めたい。
- ・理学療法士による集団訓練及び可動域・歩行訓練等の個別訓練を定期的実施した。
- ・電動ベッドを調達し利用者の高齢化・重度化に対応する環境を整えた。
- ・生きがいくくりとして、地元企業の下請け作業に取り組み工賃を支給するとともに、アート活動や生け花、音楽療法等で自己表現することで達成感や充実感に繋げた。
- ・稲垣歯科と協力歯科医療機関契約を締結し、9月から毎月1回、歯科医師と歯科衛生士から利用者の口腔ケアについて指導を受けた。

(2) 利用者支援の向上

- ア 行動障がいがある方や高齢知的障がい者の方を対象として、2カ月に1度、外部専門家をアドバイザーとしてケース検討会を実施した。このケース検討会には行政機関や相談機関も参加し支援の現状を広く周知した。
- イ 精神障がいがある方を対象として、月に1度外部の臨床心理士の面談を行うことで利用者の精神状態の安定を図ると同時に、利用者の関わり等支援のアドバイスを受けた。
- ウ 職員を対象として、精神障害・てんかんについての研修会を実施した。
- エ オンラインによるユマニチュード研修を受講した。
ユマニチュードとはケアの対象である相手に「あなたは大切な存在である」というメッセージを相手が理解できる形で伝えることであり、対人援助技術の基本をわかりやすく学ぶ機会となった。また園内復命研修を通して他の職員に理念を伝えることができた。

(3) 日中活動の充実と潤いのある生活の提供

- ア 利用者の障害特性に応じた活動を実施した。(音楽療法・簡易作業・DVD鑑賞等)
- イ 余暇の充実のため利用者からの希望を聞き取り、毎月自治会で季節に応じたイベントを開催し余暇の充実に努めた。
またコロナ禍ではあってもドライブ外出やバーベキュー大会などを企画し余暇の充実に取り組んだ。今後の課題として言葉でのコミュニケーションの図れない方の意思を汲み取る工夫をしていきたい。
- ウ 勝谷公民館主催の屋外活動のコスモスの種まきは実施できたが、それ以外の交流はできなかった。

(4) 虐待防止に向けての取り組み

- ア 虐待防止チェックリストを年2回実施し丁目会議や虐待防止委員会で検証を行い、職員の日々の支援の振り返り及び対応を話し合った。
虐待防止研修ではチェックリストにイライラする場面を記載し、その対応についてグループワークを実施し成功体験や新たな対応方法を話し合い情報の共有を図った。
- イ ヒヤリハット報告や自治会報告から虐待に繋がる事案がないか確認し、年間を通じて虐待に繋がる事案はなかった。
- ウ ご意見箱に入れられた利用者の声や要望に対して苦情解決委員会、丁目会議等で話し合い改善に努めた。
- エ 今年度はウェブ研修で「権利擁護セミナー」、「障がい者虐待防止共通基礎研修」、「障がい者虐待防止・権利擁護研修」等、権利擁護研修に積極的に参加した。
- オ 園内研修では、年に3回、全職員を対象に「権利擁護・虐待防止研修」を実施した。

(5) 経営改善・基盤の確率

- ア 令和3年4月1日より利用者定員(生活介護・施設入所)を70名から60名に変更した。
今年度の稼働率は、以下のとおりであった。
目標稼働率：生活介護103.0%、施設入所98.0%、短期入所60.0%
実績稼働率：生活介護106.0%、施設入所98.5%、短期入所53.3%
- イ 令和3年2月にエアコンを部屋ごとに設置し電気代の増額が見込まれたが、電気使用量は前年度の98.8%、電気代は約150万円増となったが、空調設備変更により上下水道代、灯油代が約340万円減となり全体では約190万円の減額となった。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
鳥取短期大学	9月	2人	20人
豊岡短期大学	11月～12月	1人	24人
鳥取社会福祉専門学校	11月～12月	3人	15人
計		6人	59人

(2) ボランティアの受入実績

鳥取市鹿野町赤十字奉仕団

[延べ43人]

5 附帯事業

(1) 短期入所事業 定員 2名及び空床型

(2) 日中一時支援事業 定員 上記同様

(3) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	10	389	8	454
日中一時支援事業	0	0	0	0